

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様で組織的な教育活動を個に応じて展開する。</p> <p>2 普通科及び工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>1 成果</p> <p>・平成28年度は、一泊研修（1年生）、校外学習（2、3年生）、インターンシップ（2年生）、文化祭、体育祭、研修旅行（2年生）等の学校行事において、積極的・意欲的に参加し大きな成果に結びついた。部活動では前年度に引き続き、ハンドボール部（男・女）や陸上競技部や機械工作部が京都代表として近畿大会や全国大会に出場することができた。また、鉄道研究部においては、熊本大震災で被災した益城町へ訪れ、ミニ鉄道運行を通じて大きな笑顔を届けることができ、地元マスコミにも取り上げられた。</p> <p>3年生の進路状況は、就職については求人数の増加と丁寧な指導により、ほぼ希望通りの内定を得ることができた。大学進学についても、AO入試や推薦入試、一般入試でほぼ希望の進学先に合格することができた。</p> <p>2 課題</p> <p>・中途退学・転学者数についてはかなり減少させることができた。しかし、入学時の学力を向上させることを目指した教育環境のさらなる充実を図るとともに、生徒の規範意識を育て、本校の経営方針の「人間力の育成」を全教職員の意識共有により、個々の重点目標を具現化することが重要である。</p>	<p>1 原級留置、中途退学、転学等による進路変更の生徒数を更に減少させる。</p> <p>2 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高め、規律正しい学校生活の実現に努める。</p> <p>3 生徒一人ひとりの学習意欲を喚起し、個に応じた指導により学力を伸ばす取組を充実し、確かな学力を育む。</p> <p>4 工業科の学科改編完成年度で、工業教育推進教育体制を一層充実し、学校全体で系統的な指導の充実を図る。</p> <p>5 「人間力の育成」に係る大きな側面である部活動、特別活動、自主活動をより一層推進する。</p> <p>6 本校教育活動において保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p> <p>7 特別支援教育に係る文部科学省の研究指定校として、教職員全体で生徒の自立に向けた研究を推進して実践する。</p> <p>8 上記の7項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図るため、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し、円滑に実施する。	A	B	B	考査時間割、教室配置、監督割当等において特に大きなトラブルはなく円滑に実施できた。
		生徒向けの授業評価アンケートを改訂・実施し、授業改善に役立てる。	B			今年度からデータ処理ソフトにより、アンケート回答用紙作成及び集計を実施し各教員の労力は軽減できたが、全教科の総括が1月下旬の職員会議となり、今年度の授業に還元するには遅かった。
		公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。	B			11月上旬を公開授業週間として実施した。授業規律の確保も含め、効果的な授業展開についてさらに研修を深めていかなければならない。
		新様式シラバスを全教科作成し、計画的な学習指導に資する。	C			シラバスの作成はできているが、内容の検討や生徒に向けた活用の点では不十分である。
		成績不振生徒の状況を常に把握するとともに、教務部として適宜面談にも加わり早期改善を図る。	B			成績不振生徒については定期的に確認することとしているが、教務部として個別対応はできていない。学年部と連携を図りながら早期対応を心がける必要がある。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
生徒指導	基本的生活習慣、学習態度を確立させる指導を充実する	身だしなみの指導等において全教職員が一致した指導を実施する	C	C	B	頭髮指導については、学期始めに一斉点検を実施しており、再登校指導も含めながら継続的に指導することができた。しかし、服装指導については、男子は第1ボタンを開けていたり、女子はリボンを正しく着用しなかったり、スカートを巻き上げたりする生徒が多く、指導しきれなかった。
		生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する	C			一部の講座やクラスで授業をスムーズに進めることができないところがあった。携帯電話による指導が後を絶たず、昨年度よりも増加した。
		問題行動の未然防止を図るため、各分掌、教科と連携する	C			問題行動の件数が、昨年度の同時期と比べ約2倍となっており、落ち着きのない状況が続いている。年度当初は盗難が相次ぎ、貴重品の管理について全校集会を開かなければいけなかった。
	自主性、自発性を育成する	田辺高校祭を成功させる	A	A		生徒がそれぞれの役割をしっかりと果たし、田辺高校祭の成功に向けて努力し、素晴らしい学校祭となった。
		部活動を活性化させる	A			体育系部活動では、全国大会や近畿大会に出場し活躍する部活動もあった。その半面、4月に入部した生徒の退部も目立ち、全体の加入率が低下している。継続して活動させる取組が必要である。
		生徒会・ボランティア活動を活性化させる	A			生徒会活動においては、ペットボトルキャップの回収や被災地への募金活動など積極的に活動できた。地域清掃活動も多くの生徒が参加し地域の美化に貢献することができ京田辺市から表彰された。
進路指導	希望進路の実現	生徒一人ひとりの学習意欲を喚起するとともに、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。	B	B		進路HR、学習合宿、進学補講、就職指導などの実施により希望進路の実現につなげることができた。今後は、日々の学習活動での意欲向上につながるよう工夫することが必要である。
		自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業訪問を実施し就職指導の充実を図る。	B			進路ガイダンス、就職セミナー等を実施して、勤労観、職業観の醸成を図ることができた。また、企業訪問を積極的に行い、近年にない多くの求人件数を確保できた。機械製造系求人が減少したため、次年度は重点的に求人開拓する必要がある。
		系統的な進路指導となるよう、指導の内容について見直すべきものは改善・整理していく。	B			各種ガイダンス、学習合宿、実力テスト（模擬試験）、補講等の時期、内容の検討をすすめることができた。
人権教育	人権意識の高揚及び実践的態度の育成を通して、人間力の充実を図る	生徒の学習の深化と定着を目的に、外部講師による講演を実施する。 今年度より施行された障害者差別解消法に関する学習内容の取組みを行う。	B	B		1学期に実施した人権学習では、2年生は外部講師を招いて講演を行い、盲導犬に関して、より身近で理解しやすい内容に変更し実施できた。2学期は3年生の内容を新しく変更し、労働というテーマで外部講師を招いて講演を行った。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
工業教育 の充実と 発展	学科改編完成年度を迎え、学科間の調整を行う。また、専門科目の学習内容の充実を図ると同時に、各種資格等の取得率向上を目指す	具体的な教育内容精査、より効果的な実施方法、指導者側の有用な指導体制等について検討を進める。	B	B	B	学科別での対応は、概ね計画通りに取り組んでおり、工業部において各学科長間での連絡調整ができています。 学科改編の完成年度を迎え、より具体的な指導内容や方法の検証等が必要である。 工業部の在り方を含め、各学科での指導体制等、より有効な教員体制の検討が必要である。
		資格取得や検定の合格に向け、講習会等のより効果的な指導方法を検討するとともに、計画的に実施する。また、各種競技会にむけた指導の充実とその体制を整備する。	B			資格取得や検定の合格に向けた講習会等は、概ね計画通りに実施することができた。 学科改編完成後、取り組むべき資格や検定、競技会等の精選や指導体制の確立等、今後も継続的な検討が必要である。
	大学や企業などにおける、実際の技術・研究に触れる機会を企画する	大学や企業の見学会及びインターンシップなどを企画・立案・実施する。	B	B	インターンシップについては、各学科の特性に合わせ日程等の変更を行ったが、大きな事故等なく無事終了することができた。しかしながら、新たな課題もあり、今後とも継続して検討が必要である。 各学科での企業や大学などの見学、また連携授業等に取り組んだ。	
		外部技術者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	A		積極的に外部講師等を活用し、ほぼ計画通りに実施できた。	
家庭・地域社会との連携	中高連携と広報活動を充実する	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や施設見学等を再編し実施する。	B	B	学校説明会は内容を変更し実施することができた。また、中学校での進路学習、出前授業、塾主催の説明会など本校を紹介する機会に各分掌、教科の協力をえながら、積極的に参加できた。 PTA活動では、文化祭等でPTA役員の方々の協力のもと各事業を実施し、売り上げの一部を大分県被災地義援金とした。	
	ネットワークの運営・管理をする	ホームページをより有効に活用できる体制を整え、多様な生徒の活動を学校内外に紹介する	A		広報活動では学校ホームページのシステム変更に伴うトラブル等について随時対応し、より学校をアピールできるように運用できた。また、たな高メール（PTAお知らせメール）、広報誌等でも積極的に広報活動を行えた。学校紹介パンフレットは1冊で分かりやすいよう情報を掲載したが、さらに来年度へ向け、他分掌の意見を取り入れながら、改良していきたい。	
学校関係者 評価委員会 による評価	○就職決定が希望者の100%となっていることは良いことである。京田辺市内の事業所への就職者が増えるようなものづくり企業見学会などの施策も重要である。 ○ユニバーサルデザイン化を、わかりやすい授業作り、落ち着いた学習環境をさらに進め、中学生の持つ多様な希望に叶うような魅力ある学校作りを今後も進めて欲しい。 ○ホームページや「たなべ新聞」など、今後も学校をアピールする場を充実させて欲しい。					
次年度に向けた改善の方向性	○生徒募集における広報の仕方を見直し、本校の魅力をより具体的に中学生やその保護者に伝える。 ○転退学防止の観点から、中学校との連携を密にし、学校全体としての取り組みも検討していく。 ○普通科の大学進学状況の活性化と工学探究科の大学進学実績を伸ばすため、早期から生徒の進学意欲が高められる方策を行う。					

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

D：達成できていない（成果がなかった）